

International Medical Science Training Course**(台湾での伝統中国医学コースへの17日間の派遣)****医学医療系 大庭良介**

期間：2018年7月15日～7月31日

本コースでは、国立成功大学（台南・台湾）で開講された2週間のサマープログラムを中心に、台湾にて伝統中国医学の基礎を学習しました。医療科学類より2名の学生が参加しました。国立成功大学は、台湾の国立大学で唯一サマープログラムにて伝統中国医学のコースを開催している大学で、筑波大学とも長年に渡って研究教育の面で交流があります。今回のサマープログラムでは、基本的な伝統中国医学の考え方の学習とともに、鍼灸の臨床現場の視察、薬局での生薬購入、漢方薬の製薬会社・工場の見学などを体験しました。また、期間中、阿里山への登山、台南市内の歴史的地区の散策、台湾伝統竹細工作り体験など、台湾の自然と文化について学習しました。サマープログラム後、台北に移動し、筆者の元、伝統中国医学の考え方の基礎、方剤の構成と考え方と証との関係、生薬の味と性質などについて、復習も兼ねて少しだけ体系的に勉強してもらいました。加えて、やっぱり一歩目ということで方剤学習の基本となる桂枝湯。生薬を実際に薬局で買って、それを実際に煎じて飲んでみる、ということの流れを体験してもらいました。傷寒論に照らし合わせながら桂枝湯ってどんなものか、そこに含まれる生薬の役割の古方派的な解釈はどんなものかを、勉強してもらいながら。また、台北では、故宮博物院、迪化街、漢方薬局（生元と科学中薬）、九份、十分などを巡るエクスカージョンを実施しました。



NTU 溪頭実験演習林での野外実習



NTU で細胞培養準備中

筑波大学からは、他にも3名の医学類生が成功大学のサマープログラムに参加しました。参加学生にとっては、伝統中国医学のほか、英語によるコミュニケーションのみならず、台湾の文化、企業、自然、を学び、そして、自身の将来を考える有意義な経験になったと思います。医科学の勉強をしっかりとしてもらったあとに、是非再び伝統中国医学に興味を持ってくれると良いですね。

筑波大学からの参加者

- 参加学生（5名。医療科学類2名、医学類3名）：石川萌菜（医療科学類3年）
鈴木晴媛（医療学類3年）、他医学類3名。
- 教職員：大庭良介（医学医療系、台湾オフィス）

学生参加費 自費

成功大学サマープログラム参加費および台南での宿泊費は成功大学側の負担。

その他の航空券や宿泊費を含めた費用は、筑波大学の奨学金（はばたけ！筑波大生）よりサポートを受けました。



国立成功大学（台南）



授業風景（理論）



授業風景（グループワーク）



授業風景（臨床現場）



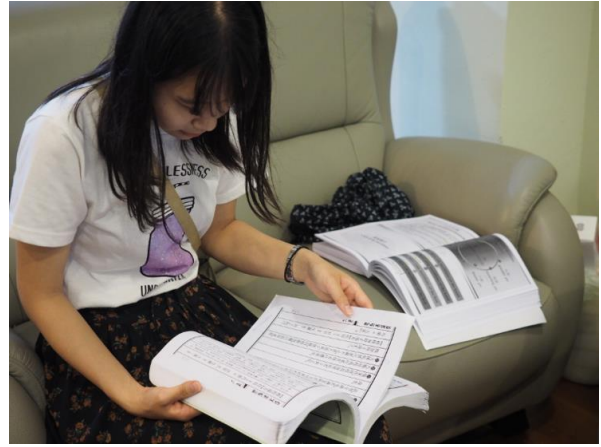
授業風景（針治療）



桂枝湯を煎じる



桂枝湯について勉強中



傷寒論を勉強中



エキスカーション (十分)



食事 (台南)



エキスカーション (阿里山)



台湾オフィス前にて

スケジュール

Date	Content	Location
15-July	To Tainan, Taiwan (arriving on 17:00)	Tsukuba
16-July	- Basic Survival Chinese class and practice with the contact students/Group project discussion - Introduction to cross-culture ethics integrity	Tainan
17-July	- Presentation on Tainan history and historical sites before visit. Chihkan tower, Confucious temple, Anping old street, Anping fort, watch sunset at the beach - Introduction of History of Chinese Medicine - Introduction to the Viscera and Bowels Theory	
18-July	- Cultural activity (Bamboo DIY) - Breathing exercise	
19-July	- Health care system of Taiwan - Traditional Chinese Medicine examination techniques - Group presentation	
20-July	- Traditional Chinese Medicine focus on Herbal Medicine (Tasting and identification of some ingredients) - Group project visit Chinese Medicine Clinics	
21-July	- Excursion to Kaohsiung city	
22-July	- Excursion to National Palace Museum in Chiayi	Chiayi
23-July	- Excursion to Alishan mountain and Fenquihu	Alishan
24-July	- Introduction of Meridians and pressure points(I) - Chinese calligraphy	Tainan
25-July	- Student presentation on alternative medicine in each country - Introduction of Meridians and pressure points (II)	
26-July	- Field learning of herbal medicine production - Hands-on experience (cupping and moxibusion)	
27-July	- Final group presentation	
28-July	Move to Taipei	Taipei
29-July	- Summary and Practice of Chinese medicine (Basic theory of chinese medicine, and practice of Keishi-to prepartion) - Excursion to National Palace Museum, Di-Hua street, Chinse medicine pharmacy	
30-July	- Excursion to Jui-fen, Shi-fen, Hou-tong	
31-July	- To Japan (Departure on 14:00)	Tsukuba

実施

医療科学類：森川一也、福田綾

国際連携食料健康科学専攻、筑波大学台湾オフィス：大庭良介

報告者：大庭良介

参加学生の声

筑波大学医学群医療科学類三年次 石川 萌菜

・学習成果について

このプログラムを通して、中医学に関する歴史、基礎知識、呼吸法、主な生薬やツボなどの概要を学ぶことができました。例えば、中医学における五臓六腑や経絡の考え方、生薬の特徴や成分、ツボの位置と効果などを学びました。さらに、中医学に関する最近行われた実験や研究の発表を聞いたり論文を読んだりする機会もあり、長い歴史を持つ中医学は現在もさまざまな研究がされていることがわかりました。また、中医学独特の呼吸法による脈および脳波の変化を観察し、ツボ押しや鍼灸、カップリングを行ってもらうなど、実際に体験することもできました。

漢方はわたしにとって身近な存在ですが、漢方およびそのもととなった中医学には、知らないことがたくさんあったのだと感じました。西洋医学とは考え方や視点が異なり、現在の西洋医学では中医学を説明しきれないような、どちらも医学ではあるけれど本質が異なるものという印象を受けました。論理的な根拠が曖昧と思われがちですが、まだ科学的には説明できない事実を含む経験によって、求める治療効果が得られるということは、医療としてもとても興味深いと思いました。

また、病院では中医学を専門とする医師の方が、患者さんを脈や舌などさまざまな視点から観察し、患者さんの主観的な訴えも取り入れて、治療を考えていました。さらに、日本の漢方では「葛根湯」「芍薬甘草湯」などのように既に調合されたものが渡されることが多いですが、台湾では患者さんに併せて専門の薬剤師さんが粉末を計量して混ぜ合わせたものも処方されていました。このような、患者さんの主観に着目し、一人ひとりに応じた治療をしていくという考え方は、中医学に限らず医療において大切なことの一つではないかと思いました。

さらに、今回はいくつかの国が参加したということで、お互いの国の医療事情や伝統医療について伝え合い、学ぶことができました。トロピカルエリアでは Dengue 熱などの感染症が大きな問題となったり、さまざまな植物が生育するため数多くのハーブが伝統医療として用いられていたりすること、温泉が湧き出る地域ではスパが伝統医療として用いられていることなど、環境や文化が異なると医療も異なる部分があることがわかりました。また、各国の医療制度・保険などについても学ぶことができました。

・海外での経験について

今回の台湾研修を通して、先生や友人をはじめ、さまざまな人に支えられて生活・学習ができていたことを改めて実感しました。海外での研修ということで、生活面でも日本で生活している時とは異なる問題が生じましたが、同行した筑波大学の学生も現地で出会った参加者たちも、私たちが困ったときに親身になって対応してくれました。また、レストランを案内してくれたり、授業後に観光やショッピングに行ったりなど、彼らと過ごすことができたのも、楽しく有意義な経験でした。会話やプレゼンテーションを通して、彼らの国の環境や文化などを学ぶことができました。

学習面においても、現地の先生方から貴重な授業・お話をしていただき、実際に生薬を買いに行き食べてみたことや、ツボを学んで鍼や灸をしてもらったことなど、大切な経験ばかりでした。

・派遣プログラムの内容について

2週間のサマープログラムでは、Introduction to Chinese Medicine and Crossculture Biomedical Ethics 2018 として、現地の先生方の授業および参加学生によるプレゼンテーションなどが行われ、中医学だけでなく、台湾の文化・歴史・自然、各国の医療事情や伝統医療なども学ぶことができました。

赤嵌楼や寺、文学博物館など歴史的な建造物に訪れることもできましたし、授業のない日には、高雄へ観光に行ったり、高山茶で知られる阿里山にてハイキングをしたりすることもできました。

台北では、傷寒論や中医学の歴史・考え方について詳しい解説をいただき、生薬を実際に煎じたり、博物院の書物や絵を見たりして、台南で学んだ中医学をより深めることができました。また、台湾のお茶を淹れて、お茶の種類や飲み方が日本で主流のものとは異なることを学んだり、博物院で歴史的な遺産を見学したり、炭鉱跡地を訪れたり、文化的・歴史的な経験もできました。

今回、中医学に詳しい先生方に直接教えていただいたり、日本の医療との違いを学んだりできたことは本当によい機会であったと思います。また、現地では体験できないこともでき、様々な国の学生たちとも交流することができたのは大変貴重な経験でした。

・今後の進路への影響について

今回、中医学を学ぶことを通じて、自分がまだ知らない、学んだことのないことがたくさんあることに改めて気づきました。中医学も非常に興味深いと思いましたし、自分の知らないことに気づいたことで、興味を持って学びたいことがより増えました。また、中医学、台湾や海外の文化・現状を学んだことで、自分のことや自分の周りの環境を客観的に考えることができました。

・その他

今回さまざまな方にお世話になり、このような経験ができました。これからも自己研鑽に努めることで、この経験を今後に生かしていきたいと思います。

・学習成果について

最も大きな学習成果は、参加者出身国それぞれにおける伝統中国医学をはじめとする伝統医学の活用について知ることができた点だと思います。本プログラムでは、学生がグループに分けられそのグループごとに複数回のプレゼンテーションを行いました。それらの発表を聞いて、各国の生活の中でそれらがどれほど身近なものなのか、お互いのプレゼンテーションを通して、感じ取ることができました。さらに、グループは異なる国の学生が1人ずつとなるように構成されており、より様々な人と交流することもできました。授業内では鍼灸やカッピングの体験、生薬の試食をする機会もありましたが、それに対して積極的に新しいものを試そうとする学生、逆に未知の者に対して恐る恐る挑戦する学生などがいて、対応の違いから文化の違いや中国医学の身近さの違いを知ることが出来ました。

また、やはり2週間英語での授業やディスカッションを行ったことで、英語での会話により慣れ、ヒアリング力は高まったのではないかと感じています。

・海外での経験について

サマープログラムの授業自体は英語で行われましたが、台湾の公用語は中国語となっています。プログラムを通して、簡単な挨拶や数え方は覚えることが出来ましたが、もっと中国語も学んでから参加すると理解が深まったのでは、現地の方との交流を楽しめたのでは、と少し反省しています。

このプログラムには台湾・韓国・アメリカ・インドネシア・チェコ・日本等からの学生が参加していましたが、特に台湾の学生は教室外のアクティビティではホスト側として積極的に他国の学生をサポート・案内してくれました。日本に来た外国人の方に対して、このような丁寧な対応をしてあげたいと思い、「そのために日本についてもっと知らなければ、自分の地元や大学周辺地域の魅力とは何だろう」と改めて考えるきっかけとなりました。

・派遣プログラムの内容について

今回のサマープログラムのテーマは伝統中国医学であり、その基本知識について様々な先生がオムニバス形式で授業を行っていくというものでした。日本では一部分の「漢方薬」は比較的身近なものであると思います（葛根湯など）。しかし、本来の伝統中国医学は漢方薬のみならず陰陽五行説、経脈など独特な考え方に沿って診断・治療を行うものであると改めて学ぶことが出来ました。エビデンスを重要視する現代の西洋医学と異なり、伝統中国医学は主に長い間に積み重ねられた経験・歴史に支えられているという考え方は自分にとって新鮮で、その奥深さを感じました。例えば、脈診を行うことで脈の強弱・浮き沈みから病態を判断するという方法は、医師の感覚が重要となると言え、興味深いと思いました。

・今後の進路への影響について

私は、将来は臨床検査技師として病院で働きたいと考えています。現在の臨床検査技師の主な仕事としては、正確な患者のデータを出し、医師の診断をサポートすることがあります。しかし、伝統中国医学はそういった客観的なデータに基づくものではなく、医師や患者の主観的な判断も病気の診断において重要となると学びました。このことから、検査機器を用いて出した測定データの妥当性を、患者本人の主観的な症状の訴えと照らし合わせながら読み取ることの重要性を改めて感じました。また、今まで日本の「漢方」と伝統中国医学をほぼ同じもののように考えていましたが、その違いについて知識を増やすことができました。現在の医学の主流となっている西洋医学は、比較的世界共通の内容で学ばれています。しかし、それ以外の伝統医学はその国独自の理論・方法を持っているものです。直接学校での授業と関わりのあるものではないかもしれませんが、日本人として今後さらに日本の漢方について知識を深めていきたいと思えます。

・その他

成功大学での授業は医学系以外の専門分野からの学生も参加しており、各国の文化比較的な面に重点をおいたサマースクールでした。そのため、授業内では自分の英語理解力が不十分だった面もあり、伝統中国医学については断片的で広く浅い知識としてしか消化しきれていませんでした。そのような時に、台北に移動後、大庭先生からの簡単なレクチャーや実際に漢方を煎じる体験をしていただいたことは、知識のアウトプットの場としてとても良い機会だったと思います。台北では、迪化街や街中の薬局を探索し、台湾の人々の生活の身近な部分に漢方が根差していることも再確認することも出来ました。

筑波医療科学 第14巻 第2号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
発行日	2018年9月4日